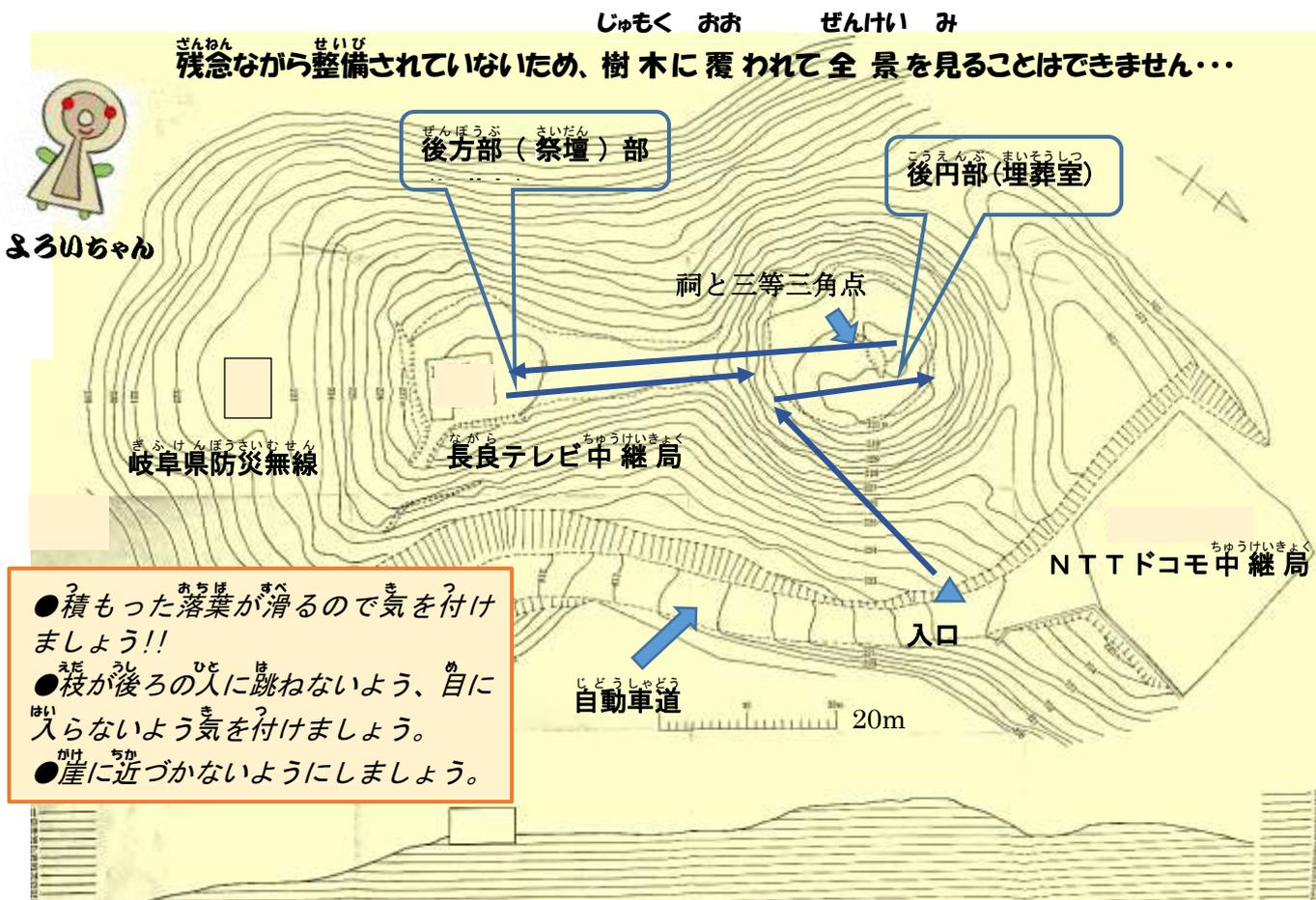


眉山と鎧塚

眉山は、江戸時代の学者・頼山陽が西栗野村に滞在した際に「眉を引いたように優美な山」と命名したものの。まさに秀麗(美しい)です。

【発行:令和8年3月29日/企画編集:岩野田北まちづくりサロン内(仮称)眉山と鎧塚古墳を学ぶ会】

3月29日(日)、鎧塚古墳の現地見学会向けに、情報をまとめました。ご活用ください。



- 積もった落葉が滑るので気を付けましょう!!
- 枝が後ろの人に跳ねないように、目に入らないよう気を付けましょう。
- 崖に近づかないようにしましょう。

Q. 鎧塚古墳って何? 出土した鎧から名付けられました

- 眉山の山頂(標高231m)にある古墳の長さ82mの前方後円墳です(古墳の説明は裏面)。
- 登山口からの高さ約207mにあり、この大きさは全国でも5番以内にランキングされます。
- 造られたのは、西暦300年代後半(4世紀後半)。今から1,600年前のことです。

Q. どうして、こんな高い、険しい場所に造ったの?

- 一番の理由は「造った人が自分の力を示すため」。また、「地面が固い岩」、「沢山の土を盛らなくても良い」、「天に近い所で魂が上りやすい」、「神としてこの地を見守ってくれる」、「水田開発などの自分の功績を見渡せる」などが理由が考えられます。

Q. 誰が眠っているの?

- 天皇の親戚で、この地方を支配した力のある人(豪族)と考えられています。可能性の高い人の名前も挙がっています。裏面にその人物のことを紹介しました!!

こふん 古墳って何だろう?!

●3世紀後半から7世紀にかけて、地域の有力な人が、又はその一族のお墓です。盛り土がされています。

●全国に約16万の古墳があります。

●いろいろな形の古墳があり、前方後円墳は、5,000基前後があります。巨大な古墳の多くは、前方後円墳で最大の古墳が、仁徳天皇のお墓とされる大山古墳(堺市)で長さ486mもあります。クフ王のピラミッド(底辺約230m四方)、秦の始皇帝陵(底辺約350m四方)とともに「世界三大墳墓」の一つです。

●前方後円墳は、角形の盛り土した部分と円形の盛り土した部分がつながっていて、上から見ると鍵穴のような形をしています。

はにわ 埴輪って何だろう?!

●古墳の上や周囲に置かれた素焼きの土器です。魔除けや聖域を守るといいう役割があります。

●3世紀後半に筒のような円筒埴輪が登場し、4世紀に家や鶏などの形が、そして5世紀以降に人の埴輪が作られるようになりました。

●鎧塚古墳からも、円筒埴輪が見つかっています。

●埴輪の「埴」は、粘土や赤い土という意味です。普通は、粘土と強度を高めるための川砂を混ぜて作ったと言います。

鳥羽川の土と砂を用いて眉山の麓で焼いた後、山頂まで運んだのでしょね。



▶別の古墳で見つかった円筒埴輪

ふきいし 葺石って何だろう?!

●古墳の斜面に敷き詰められた河原の石です。土砂が流れたり、樹木が生えないよう、工事に使われました。

●今は草木に覆われた鎧塚古墳でも葺石が見つかっています。今も、転がっているかもしれない。探してみましよう(持ち帰ってはいけません)。

●工事に必要な葺石ですが、それ以外にも、聖域としての境界を明確にするとともに、遠目にも神々しく光輝く姿が、力を示しました。



▲復元された三ツ城古墳(東広島市)の葺石と円筒埴輪

岐阜市内の古墳の数は、約300基が確認されていますが、開発によって失われたものも少なくありません。市内で最大の古墳は、前方後円墳の琴塚古墳(長さ115m)で、昭和9年に国指定史跡となっています。鎧塚古墳は、市内で2番目の規模ですが、造られた時期は琴塚古墳より、50~100年ほど古くに造られました。



よろいづかこふん なぞ せま 鎧塚古墳の謎に迫る!!

岐阜県史によると、鎧塚古墳を造った人は、美濃市や関市方面に至る武儀郡を中心とする地域を支配した牟義都氏(実は日本武尊の双子の兄の子孫のよう)で、有力な候補とします。この人物は、歴史上重要な出来事である「壬申の乱」(西暦672年)で、後の天武天皇となる大海人皇子の命を受けて大活躍した豪族の身毛公広(むげつのきみひろ)の祖先なのです。

我が国最古の戸籍である「三井田里戸籍」は、何と岩野田、太郎丸、高富にまたがる地域の西暦702年の戸籍。大変貴重な資料なのですが、これによると牟義都氏一族が、この地域にも住んでいました。また鍛冶を営む人々が住み、壬申の乱で、鉄の武器を生産・供給したようです。鎧塚古墳と古代の岩野田地域の謎解きは、佳境を迎えます。

